

活用事例③

愛知県立港特別支援学校
内山 千聡・神田 典子

■活動した学年：高等部1年

■主障害名：低酸素脳症

■各教科等名：生活単元学習

■学習形態：個別指導

■本の名前：

『コッケ モーモー！』

『ちいさなおうち』など

■対象となる児童・生徒の実態

本校では障害が重度で、通学することが困難な児童生徒に対し、訪問教育を行っている。本生徒は、通常ベッドで授業を受けている。テレビを見たり、音楽を聴いたりすることが好きで、絵本にも興味をもっている。わずかではあるが自ら腕を動かすことができ、絵を描いたり楽器を鳴らしたりし、うれしいときには声を出して笑ったりする。母に支援してもらいながら、自分の描くイメージを指先で絵に表現したり、文字盤を使ってメッセージにしたりすることが得意である。

■学習のねらい

本生徒は、将来絵本作家になりたいという夢を抱いている。そのためさまざまなジャンルや雰囲気の本、絵本、電子絵本に触れ、より多くの知識を獲

得し、視野を広げてほしいと考えている。

■使用した道具・機材

ボイスオブデイジーとマルチメディアDAISY図書（わいわい文庫）がインストールされたiPad、iPadをベッドに固定するフレキシブルアーム

■実際の様子について



訪問教育での学習指導に使用した。ベッド上で寝た姿勢で、フレキシブルアームを使ってiPadの画面が見やすく、手を伸ばしやすい位置に固定し、『コッケ モーモー！』などのマルチメディアDAISY図書を使い、読み聞かせを行った。

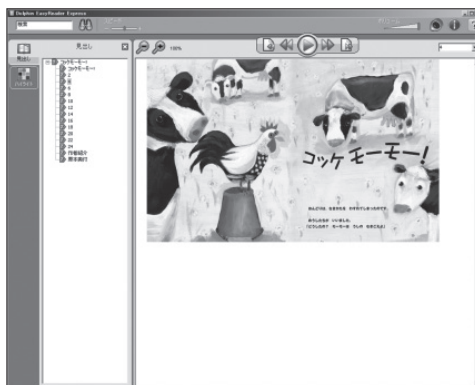
きれいな色使い、わかりやすい絵柄に目をひかれ、集中して画面を見て、物語の展開や画面の変化を楽しんでい

るようだった。また、読む声も適切な速さと声質で、聞き取りやすかった。

訪問教育を受ける生徒にとって、iPadに代表されるタブレット型端末は、家庭においても生徒の興味・関心により、たくさんの選択肢の中から、教材を選び、学習できるメリットがあると感じている。特に、マルチメディアDAISY図書の入ったタブレット型端末の場合、生徒の好きな本と一緒に選び、読み聞かせを楽しむことができるので、効果は大きいと思った。

タブレット型端末用の障害者用入力機器を使えば、ボイスオブディジーの操作も生徒自身でできるので、自分のペースでマルチメディアDAISY図書の読み聞かせを楽しむことができる。学習場面だけでなく、自分の趣味の時間でも、気軽に楽しめるマルチメディアDAISY図書が普及し、利用できればよいと感じた。

■本に対する情報提供など



『コッケ モーモー！』

鳴き方を忘れてしまったオンドリが、仲間から心配されたり、からかわれたりして、すっかりしょげてしまうが、メンドリ小屋をねらうキツネに気がついたオンドリが、活躍していく中で「きみって ほんとに すごいな!」とほめられ、うれしさから、鳴き声や自分らしさを取り戻すという話。

話もわかりやすいし、とても明るい色彩の絵なので、子どもが好む絵本だと思う。

電子絵本になり、色彩がはっきりし、子どもたちが画面に集中して、聞いてくれるので、読み聞かせにはとてもおすすめである。